

第58回 容量市場の在り方等に関する検討会 議事録

1. 開催状況

日時：2024年8月30日（金） 10:00～10:50

場所：WEB会議

出席者：

秋池 玲子 座長（ボストンコンサルティンググループ マネージング・ディレクター & シニア・パートナー）
秋元 圭吾 副座長（公益財団法人地球環境産業技術研究機構 システム研究グループリーダー・主席研究員）
安念 潤司 委員（中央大学法科大学院 教授）
小宮山 涼一 委員（東京大学大学院工学系研究科 教授）
松平 定之 委員（西村あさひ法律事務所 パートナー）
松村 敏弘 委員（東京大学 社会科学研究所 教授）
圓尾 雅則 委員（SMB C日興証券株式会社 マネージング・ディレクター）
梅本 昌弘 オブザーバー（伊藤忠エネクス株式会社 電力・ユーティリティ部門 電力需給部長）
斎藤 祐樹 オブザーバー（株式会社エネット 取締役 経営企画部長）
佐々木 邦昭 オブザーバー（イーレックス株式会社 小売統括部長）
高垣 恵孝 オブザーバー（送配電網協議会 ネットワーク企画部長）
鳥居 敦 オブザーバー（東京ガス株式会社 電力事業部 担当部長）
平石 雅一 オブザーバー（関西電力株式会社 エネルギー・環境企画室 企画担当部長）
森 正樹 オブザーバー（電源開発株式会社 経営企画部 部長）
浅井 大輔 オブザーバー代理（東京電力パワーグリッド株式会社 系統運用部 担当部長）
下津 秀幸 オブザーバー（電力・ガス取引監視等委員会事務局 取引監視課長）
筑紫 正宏 オブザーバー（資源エネルギー庁 電力・ガス事業部 政策課 電力産業・市場室長）

欠席者：

林 泰弘 委員（早稲田大学大学院先進理工学研究科 教授）

議題：

- （1） 長期脱炭素電源オークション募集要綱に関する意見募集結果について
- （2） 2024年度実需給期間の対応状況（容量確保契約容量・容量抛出台金）

資料：

【資料1】議事次第

【資料2】委員名簿

【資料3】長期脱炭素電源オークション募集要綱に関する意見募集結果について

【資料4】2024年度実需給期間の対応状況（容量確保契約容量・容量抛出台金）

【別紙1】2024年度長期脱炭素電源オークション募集要綱（案）

【別紙2】長期脱炭素電源オークション容量確保契約約款（案）

【参考1】追加オークション開催前後における供給信頼度（対象実需給年度：2025年度）

2. 議事

(1) 長期脱炭素電源オークション募集要綱に関する意見募集結果について

- 事務局より、資料3に沿って、「長期脱炭素電源オークション募集要綱に関する意見募集結果について」の説明が行われた。

[主な議論]

(松平委員)

ご説明感謝する。蓄電池の広域認定について意見を述べる前に2点確認させていただきたい。補助金において広域認定は必須要件ではなく総合評価の一要素と聞いたことがあるのだが、このオークションにおいては、広域認定は必須の要件にするとの理解で良いか。また、現時点で事務局において、広域認定を得ている事業者数が分かっているようであれば教えていただきたい。

(事務局)

ご意見感謝する。1点目、広域認定の補助金との関係であるが、補助金側でも今年度からは必須要件になると聞いており、そちらと整合する形で、こちらのオークションにおいても要件化している。2点目、認定を取得している事業者についての正確な値はオークション事務局としては把握していないが、数社というオーダーであることは把握している。

(松平委員)

承知した。オークションのルールとして幾つか大事な要素があるが、二つが重要だと考えている。一つはルールが明確であること、もう一つは事業者間の競争に資するもので、それを通じて価格低減がなされていくということである。一つ目に関して以前この話が出てきた時には要件かどうかは明確ではなかったのだが、逆にそれが必須要件であるならば明確であり、皆が同じ条件で競争できることになる。曖昧な条件により、真面目にやる人と、そうでない人の間で不均衡が生じることが避けられるため、その点は良いと考えている。もう一つの競争に資するものに関しては、認定を取得している事業者は数社という話があったが、その数が限定的である場合、このオークションを通じて蓄電所や長期脱炭素電源の開発をされる事業者間での競争はしっかりとされるものの、より上流の、不可欠な蓄電池設備のところでは実は競争が働かないということになってしまうと、オークションを通じた競争、価格低減に必ずしも資さなくなる。認定を取得する事業者数が、事業者にとって実質的な複数の選択肢がある環境になるように経済産業省とともに整えていっていただきたい。今どの程度の情報がパブリックになっているのかは認識していないのだが、蓄電池の開発をしようとする事業者にとってみれば、要件を満たすための情報がないと検討を進め難いと考え、情報を把握できるような環境を整えることは大事だと考えている。これはどちらかというと環境省にということかもしれないが、他の法制度等に反しないことを前提に、どういう事業者が申請をしていて、どういう事業者が認定を取得しているのかという情報を、可能であれば公表していただき、現実的な選択肢として何があるのかを蓄電池事業に取組もうとする事業者が把握できるような環境を整えることはあり得ると考えている。数社による競争環境が整備されるということであれば、この仕組自体、廃棄がきちんとされるようにという目的において正当だと言える。前々回くらいの本検討会において、より制限的でない手段もあり得ると申し上げたとおり、複数社による競争環境が整備されるという前提で、例えば、積立金を積立させる、廃棄のための費用を積立させる等の選択肢も制度としてはあり得ると考えた。

(小宮山委員)

ご説明感謝する。各種要望に対する事務局の回答案に賛同させていただく。適切に回答案を作成されていると認識している。4ページ、一部約款に関してリクワイアメント・アセスメントに関する意見があったとのことだが、約款に対する意見の

件数を踏まえると、開始している長期脱炭素電源オークションに関して事業者の理解が浸透してきたと認識した。また、回答は適切に作成されていると認識するが、7 ページの約定結果公表日に関しては、電力・ガス取引監視等委員会の監視状況等に応じて前後する場合があるとしながらも、応札年度の翌年度に公表する旨をしっかりと明記することで事業者の理解も明確になったと認識している。

（安念委員）

8 ページの接続検討回答書の提出期限については事務局内で検討の末での結論であるから余計な心配であろうとは考えるが、日程が密に立込んでいる中で提出期限を 1 ヶ月延ばすということについて、事務局の業務上の負担が過大になることはないのご判断か。確かに、事業者から提出期限を延ばして欲しいという要望が出ることは理解できるが、率直に言って、最低設備容量を 1 万 kW から 3 万 kW に引上げる話は非公式にはだいぶ前から出ていたことなので、準備ができていてもおかしくはない。ここまでの対応をしていただいても本当に大丈夫なのかを確認したい。

（秋池座長）

思いやりのあるお言葉に感謝する。仰るとおり、事務局は色々と丁寧に対応しており大変であることは理解している。ここで一旦、事務局からコメントをいただきたいと考えるが、いかがか。

（事務局）

様々なご意見をいただき感謝する。松平委員からいただいた広域認定の話については、足元では認定を取得している事業者は限定的だというご意見を事業者からいただいている。今後、競争環境は整備されていくと考えているが、初回はリードタイムが短いことを勘案し、広域認定の取得については緩和して提出期限を応札直前までとさせていただいた。メーカの広域認定取得の公表状況については今後オークションを進める中で資源エネルギー庁と連携しながら引き続き検討を深めていきたいと考えている。安念委員からいただいた接続検討回答書の緩和処置であるが、仰るような事務局側の負担とアクセス業務を担っている一般送配電事業者の負担が発生すると考えてはいるが、今回、無制限に延長するという処置を取っているわけではなく、事業者からご意見いただいたような参加登録の準備を変更せざるを得ない電源区分であり、かつ時期についても中間とりまとめ案の公表よりも前に予め国の審議会で示されていたということもあるため、それらを踏まえて合理的な範囲で緩和させていただいた。こちらで対応していきたいと考えている。

（秋池座長）

他に委員、オブザーバーからご意見等ないか。宜しいか。事務局から何かあればお願いしたい。

（事務局）

今回も様々なご意見をいただき感謝する。第 2 回長期脱炭素電源オークション開催に向けて、引き続き、資源エネルギー庁、電力・ガス取引監視等委員会とも連携して、事業者向けの説明も行いながら、参加登録、応札等を進めて参りたい。

（秋池座長）

長期脱炭素電源オークションについては本年度が第 2 回目の開催となる。募集要綱の意見募集の結果を踏まえて、この後、募集要綱と約款が公表される。10 月からはオークションの応札に向けた参加登録が始まる。事務局の皆様には参加される事業者の方々へ説明会や業務マニュアルの提供等、引き続きのサポートをお願いする。また、委員、オブザー

バーの皆様にはこれまで様々な観点からのオークションの開催に向けたご意見をいただき感謝する。

（２）2024年度実需給期間の対応状況（容量確保契約容量・容量抛出台金）

○ 事務局より、資料 4 に沿って、「2024年度実需給期間の対応状況（容量確保契約容量・容量抛出台金）」の説明が行われた。

〔主な議論〕

（小宮山委員）

今回、実需給年度 4 月に関して結果を分かり易く取りまとめ、報告していただき感謝する。3 ページの容量抛出台金の納入率についてはほぼ 100%完了ということで何よりだと認識している。また、アセスメントに関しても、リクワイアメントの未達も少ないということで、95%の電源が残額なし、97%の電源が減額10%未満ということで何よりだと認識している。4 ページ、5 ページでご説明のあった広域機関の事業者説明会において、様々なステークホルダーを一堂に会し対面形式で丁寧に行っていたいただいた賜物だと認識している。今回は 4 月度についてご報告いただいたが、納入率やアセスメントの状況については年度の振り返りでもご報告いただきたい。

（秋元委員）

ご説明感謝する。小宮山委員のレポートになるが、思ったより納入率が高く良かったというのが率直な感想である。広域機関事務局が説明をしっかり丁寧にやってきてくれた賜物だと理解しており、これまでの努力に感謝申し上げたい。

（安念委員）

小宮山委員、秋元委員のご発言に同感である。上々の滑り出しになって、事務局の皆さんのご尽力に心から敬意を表す。キャッシュの受け渡しというのは蓋を開けてみないと分からず、本当にお金を払ってくれるかどうかというのは緊張感の強い話である。この先はまだどうなるか分からないが、率直に言って、考えていた以上の滑り出しではないかと認識している。秋元委員がご指摘のとおり、このような上々な滑り出しができたことについては事業者向け説明会が果たしてきた役割が大きいと考えている。事務局でこれまで何回も説明会をし、色々なノウハウが積み重ねられ、益々良い方向になっていくと考えるが、資料に記載のあるように、初めて容量市場を担当する方が常におられるというのは重要なことである。参加者の中には何年も対応した担当者が変わることがあるため、ビギナーもいれば、精通者もいることになり、知識の水準差が出てくると考えられる。私も教師をしていてつくづく感じることであるが、日本人というのはたくさんの方が出てくる会議や説明会等では自分の知識がないと質問するのが恥ずかしい気分になりがちである。こここそが大切なのであって、ビギナーの人にどんな恥ずかしい質問でもいいからしてくれという雰囲気を作成するのが重要だと考える。容量市場はおかしなもので、おそらく一番初めに出てくる質問は、私達はお金を払ったら何を貰えるのかということであろうが、差しあたっては何もないという答えになる奇妙な市場なのである。そもそもイメージが湧かないのが当然なのだという前提で、これからも説明会をやっていただきたい。また、どんなビギナーでも質問ができる雰囲気であるほうが説明会としては効率的なので、その方向で今後ともご尽力いただきたい。

（斎藤オブ）

4 月からの容量抛出台金の請求支払い開始にあたり、丁寧に対応いただいていることを広域機関に感謝する。容量抛出台金支払いの実務にあたっては、各エリアの送配電事業者毎に容量抛出台金の算定方法の考え方が異なる部分があり、

我々小売事業者としては決して小さい額ではない容量拠出金を支払っていく上で、できるだけ事業の予見性を高めていくために事前に拠出金額を算定し、実際に請求いただいた金額の検証を行っているが、この作業が困難な状況になっているという現実がある。これらの点については個別に広域機関と様々なやり取りをさせていただき、弊社側でも各社がどのような考え方で算定されているのかについて一定程度の理解が深まってきているところではあるが、引き続き今後も連携をさせていただきたいと考えている。また、こういった課題については弊社に限らず他の小売事業者においても何らかの意見や要望等をお持ちではないかと考えている。11ページに、事業者の声も聞きながら市場運営を進めていくと記載いただいているので、今後の取組の中で事業者からの意見、要望等について取りまとめいただき、実務運用の改善に向けた検討をお願いしたい。

（事務局）

様々なご意見や励ましのお言葉をいただき感謝する。事務局としても、この4月の容量拠出金の納入状況に非常にほっとしているというのが正直なところである。数多くの皆様からご意見を伺ったが、今後も丁寧な説明や事業者の声を聞きながら、よりよい市場運営ができるよう心掛けていきたい。

（秋池座長）

事務局の皆様は2024年度の実需給期間に入り、数多くの確認のやり取りや毎日多くの問合せに対応されている。事業者とのやり取りで得られた運用業務の気付き等は制度や運用業務のこれからの検討にも活用いただきたい。また、容量市場の情報発信や説明会を積極的に取組まれていることを本検討会でも紹介いただき、本日ご慰労の言葉等を委員、オブザーバーからいただいているように、本当に大変なことで認識するが、世の中での理解の広がりにも繋がるので、引き続きお願いしたい。長期脱炭素電源オークションだけではなく、今年度のメインオークションも応札の時期が近づいてきた。既に参加登録が始まっているので、事業者の方々と一緒に今年度のメインオークションの準備をお願いしたい。

（事務局）

この他に本検討会の参考資料として、対象実需給年度：2025年度の追加オークション開催前後における供給信頼度の月別結果を添付させていただいている。前回の検討会でいただいたご意見も踏まえて、8月28日付で広域機関のホームページに公表している資料である。本日は公表しているというご報告であるため、中身の説明については割愛させていただく。

（秋池座長）

本日の議論は全て終了した。事務局の皆さんには感謝するとともに、引き続きの対応をお願いしたい。

以上